

# 選考をふりかえって

「エッセイ部門」中学生の部 選考長 林 真理子

最優秀賞を受賞した藤井大輝君は、さらっととても大切なことを書いています。同じ社宅に住んでいた幼なじみ。

いつも一緒に遊んでいた。自転車を買ったのも、ザリガニを取るのも同時におぼえ、そして彼に影響され、藤井君は中学受験をめざすようになります。仲よく電車に乗り遠出もします。やがて藤井君は電車に楽しみをおぼえ、学校のクラブの仲間も出ていきます。

自分の世界を確立し、楽しい日々を送っている最中、藤井君は気が付くのです。幼なじみと、もう長いこと会っていないということ。そしてとたんに寂しくなる。藤井君はすこしづつ知り始めているのです。永遠に子どものままで、幼なじみと遊び続けることは出来ないことをです。それが自然な文章で表現されていますよ。

いいエッセイというのは、作者が意図したこと以上のインスピレーションを読者に与えます。藤井君はそれが出来ました。

石井萌花さんは、現在進行中の友人を描いています。なにとても一生懸命な、ちよつと不器用な男の子。けれどもよく観察しているうちに、彼が繊細な、とてもやさしい心の持ち主だとわかります。そして「何事に対しても頑張る人は美しい」

という彼への称賛に変わります。こういうことがわかる石井さんはとても素晴らしいです。文章の書き出しの美しさ、素敵なミッシヨンスクールの校舎が目につかびます。最初から読者をひきつけることは、とても大切なことです。

大家衣濃理さんのエッセイは本当に楽しい。

ある日迷い込んできた鳩の描写がいきいきとしてユーモラスです。そしてこの鳩をめぐる家族の様子がとてもいいんです。「はい、チーズ」などと写メを撮る妹を本当にいいなあと思う。優しい自分の家族を大好きだとあらためて実感し、鳩はそれを知らせてくれるためにやってきたと考えるくだり、とてもいいですね。